

# 矢島せい子 著作一覧

---

## 1. 著 書

- 『家事と雑用』（矢島祐利・矢島せい子共著）岩波婦人叢書、1953年5月
- 『家庭科教育』（榎本稻子・鯨井あや・河野五郎・丸岡玲子・矢島せい子・和田典子共著）、日本教職員組合、1966年8月
- 『私たちの教育課題研究 家庭科研究』（河野五郎・和田典子・丸岡玲子・矢島せい子共同執筆、日本教職員組合編）、一ツ橋書房刊、1971年5月（1966年版の同名の書を編集替したもの、矢島せい子は両版とも家庭科教育の歴史を担当している）
- 『くらしの歳時記』労働教育センター、1979年2月
- 『いのち永遠に新し』（住井すゑ・櫛田ふき・石井あや子・矢島せい子共著）、労働旬報社、1985年8月（矢島せい子は「親を見つめて子どもは育つ」という章を書いている）
- 『わたしの思い出』ドメス出版、1988年1月
- 『日本の食べものよもやま話』労働教育センター、1988年5月  
このほか無記名であるが、日本子どもを守る会編『子ども白書』に執筆している。また瀬川清子著、日本の衣食住（河出書房新社、1964年）の「あとがき」に「石原綏代（やすよ）・江馬三枝子・太田道子・加藤百合子・川端道子・丸山久子・矢島せい子諸氏の協力によるところが多い」と記されている。ちなみに石原綏代氏は先年亡くなられたが、故石原純先生の令嬢である。

## 2. 家庭科教育

- 「家庭科教育の生いたち」日本教職員組合資料『家庭科研究を進めるために』1964年5月（これをさらに整理したのが「家庭科研究の生いたちをたどる」1968年——後出）
- 「家庭科教育よもやま話（講座）」『家庭科研究』創刊号、2号、3号、1966年
- 「家庭科教育の生いたちをたどる」『会報（婦人問題懇話会）』第8号、1968年
- 「家庭科教育史おぼえ書」『家庭科研究』1986年5月～87年9月（途中休載があり全部で17回、未完）
- 「被服材料の変遷と家事労働」『技術・家庭1-1教育資料』実教出版、

1961年12月

- 「家庭科のねらいは」『母と子』1970年6月
- 「家事今昔」『新しい家庭科 We ヱィ』1982年1月
- 「お正月のもつ伝統的な意味」『家庭科研究』特集「お正月を迎える」1986年1月

### 3. 追憶・回想

- 「山川菊栄女史をしのぶ」『月刊 社会党』1981年1月
- 「不思議な御縁で——山川菊栄先生のこと」『図書』岩波書店、1981年12月
- 「『武家の女性』と私」『山川菊栄集』月報10、1981年12月
- 「こころにきざむその面影」『婦人問題懇話会会報』第34号、山川菊栄先生追悼号、1981年
- 「かあさんの綾戸橋」『女子教育』1979年2月
- 「母の面影」『むつみ』（東京都弁護士夫人むつみ会）第24号、1979年
- 「母を語る」『愛生』1981年7月
- 「國仲益子さんのこと」『明日の友』第2号、1978年秋
- 「『おていちゃん』と私」『子どものしあわせ』1978年9月
- 「思い出のなかの加東大介」『子どものしあわせ』1975年10月
- 「娘と私」『婦人通信』1977年8月
- 「羽仁説子さんの思い出」『赤旗』日曜版、1987年8月23日
- 「先生に——思い出と、ねがいと」『岩波講座教育』月報7、1952年21月
- 「学問と芸能との家」『婦人之友』（建業60年）1963年4月
- 「朝鮮から引揚げの時など」『母と子』1966年21月
- 「浅草そだち」『保育の友』1975年9月
- 「仮り教室の読みきかせ」『教育実践』1979年春
- 「浅草育ちの学問志向」『岩波講座子どもの発達と教育』第8巻、1980年1月
- 「思い出は楽しいことばかり」婦人問題懇話会年会の印刷物、1985年

### 4. 子どもを守る運動

- 「沖縄の子どもたち——子どもたちへの差別・基地公害・障害児（者）」

の実態」『子どもを守る』（新聞）1969年3月15日

- 「沖縄の障害者施設をたずねて——長い差別の重圧とたたかう」『子どものしあわせ』1969年6月
- 「基地公害といわれる“風しん”の子供たち——沖縄を視察して」『母親しんぶん』1969年12月25日
- 「『子どものしあわせ』との出会い——1号からの“配達人”」『子どものしあわせ』1976年5月
- 「子どもは親だけでは守れない」『親子読書』1980年4月
- 「子どもをしあわせに」『市川市立小PTA会報』1985年10月

## 5. 母親運動

- 「母と子のしあわせのために」第19回千葉県母親大会会長あいさつ、1976年7月26日
- 「民主的な家庭づくり」（談）『新婦人しんぶん』1971年9月9日
- 「親になったからこそ平和について考えてほしい」『ベビー・エージ』1982年8月
- 「女は何故に子を産むか？——赤ちゃんは“希望”だから」『ベビー・エージ』1974年5月
- 「賢い母になろう」『ベビー・エージ』1971年3月
- 「“夢”を贈りましょう」『ベビー・エージ』1973年2月

## 6. 障害者運動

- 「天龍の流れに——精薄の子どもの楽園をたずねて」『子どものしあわせ』1965年7月
- 「勇気を出して結婚しましょう」『子どものしあわせ』1966年8月
- 「障害者運動と私」『全国障害者問題研究会・関東ブロック集会報告集』1975年7月
- 「全障研第10回全国大会に参加を——この大会を一つの節に」『みんなのねがい』1976年7月
- 「このごろ思うこと」『はげみ』（日本肢体不自由児協会）1980年6・7月
- 「すべての障害者が豊かに幸せに」全国ろうあ婦人集会（10周年記念）1980年11月

- 「障害児者との出会いのとき」『家庭科教育』1981年1月
- 「健常者のする運動——としよりも障害者ですよ」『機関紙と宣伝』（日本機関誌協会発行）1981年1月
- 「国際障害者年」『教育評論』臨時増刊号1981年3月
- 「国際障害者年・日本の取り組み」『家庭科教育』（家政教育社）1981年8月
- 「障害児のもんだい」『国際障害者年・母と女教師の会全国集会討議資料』「母と女教師の会の運動をひろげるために——子どもの幸せをもとめて」（日本教職員組合婦人部）1981年8月23・24日
- 「障害者の願いと運動」『療養の窓』（全国心身障害児福祉財団）第37号1981年
- 「国際障害者年は何をもたらしたか——その歩みと成果」『月刊福祉』（全社協）1982年2月
- 「結集の呪文を大切に」ひがしむらやま身患連（東村山身体障害者患者連絡協議会）『10年のあゆみ』1982年3月
- 「国際障害者年と上野裁判」『上野裁判と安全歩行』1983年2月
- 「帽子の針さし——手をつなぐことの大切さ」『手をつなぐ親たち』（特集小規模作業所の運営の仕方）1984年6月
- 「私と障害者運動」『障害者の福祉』（特集障害者の高等教育・障害者の雇用）1984年10月

## 7. その他いろいろ

- 「国鉄問題を考えるシンポジウム」（国民の足を守る中央会議会長あいさつ）1985年4月1日
- 「私のこのごろの夢」『みんなのねがい』1976年1月
- 「勇気を出してもっと勉強を——婦人教師の若き友S子さんへ送る手紙」『子どものしあわせ』1969年3月
- 「甘くて苦い砂糖のはなし」『子どものしあわせ』1971年7月
- （書評）「山川菊栄著『覚書・幕末の水戸藩』」『婦人問題懇話会会報』第22号、1974年
- 「（私の一言）くちばかり」『日本農業新聞』1977年7月10日
- 「浅草の古着屋のはなし」『婦人之友』1978年10月
- 「私にとって仲間とは」『峰』第30号1979年8月
- 「私のやぶ入り」『赤旗』1986年1月12日

- 「生きる、働く、学ぶ」『福祉のひろば』1986年1月

## 付 講演・座談会記事

- (記念講演)「こどものしあわせを、みんなの手で」熊本県県教組菊池支部夏期教研集会 1971年8月12日
- (誌上文化講演)「子どもは1冊の本——家庭と教育について」『群』(全通信労働組合群馬地区本部)第2号 1980年8月
- (記念講演)「こどものしあわせを求めて——子どもを守り、障害児を守る」『第18回目教組幼児教育研究集会報告書』1980年12月
- (対談)「新しい母・古い母」(矢島せい子、沢村貞子)『こどものしあわせ』1966年10月
- (座談会)「お母さんは訴える——矢島せい子さんを囲んで」(矢島せい子・藤本治美・坪井春江・雨宮八千代)『みんなのねがい』1971年2月
- (対談)「20歳になった児童憲章」(木下正一・矢島せい子)『保育の友』1971年5月
- (研究会記録)「農村婦人問題をどうとらえるか」(虎谷キエ・平塚光代・矢島せい子・司会丸岡秀子)『農業問題』1971年9月
- (対談)「手作りか既製品か——赤ちゃんには手作りのものでなくては愛情がこもらない」(河野五郎・矢島せい子)『ベビー・エージ』1972年4月
- (対談)「ざっくばらんに話しましょう」(縫田暁子・矢島せい子)『みんなのねがい』1972年4・5月
- (対談)「節供、子ども、あそび」(和歌森太郎・矢島せい子)『こどものしあわせ』1972年5月
- (対談)「よくあそべ、よく学べ」(金沢嘉一・矢島せい子)『みんなのねがい』1973年4月
- (座談会)「一步一步のあゆみを確実に——障害者のねがいのさらに大きな実現をねらって」(矢島せい子・宮内俊清・三島敏夫・福井典子・本間峯子)『みんなのねがい』1974年1月
- (対談)「『君が代』『日の丸』への道は？」(森田俊男・矢島せい子)『こどものしあわせ』(特集 子どもにとって自然とは) 1974年6月
- (座談会)「生涯のテーマを持つ」(矢島せい子・鈴木陽子・高田宏・早川謙之輔)『婦人之友』1978年12月

- (座談会)「羽仁説子・矢島せい子おおいに語る」(羽仁説子・矢島せい子・司会吉本哲夫)『障害者の人権を守る国際障害者年をめざして』(障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会発行)1979年7月
- (座談会)「障害者の幸せな時代をつくるために」(岡崎英彦・矢島せい子・浦井洋・司会山本英典)『暮らしと政治』1980年11月
- (対談)「子をもつ親の願いは同じ」(羽仁説子・矢島せい子)『子どものしあわせ』1981年1月
- (パネルディスカッション)「テーマ、平和・母・子ども」(永田道子・石田明・木村郁子・矢島せい子・司会橋口和子)『国際障害者年・母と女教師の会全国集会報告書』(日本教職員組合婦人部発行)1982年2月
- (座談会)「今、親は子どものために何ができるか?」(乾孝・矢島せい子・司会内田早苗)『ベビー・エージ』1983年1月
- (座談会)「女・母・生きる」(大石千恵・清水道子・矢島せい子)『みんなのねがい』1983年8月

(矢島祐利編、『矢島せい子の足跡』ドメス出版、1989より)

## 関連書籍

- 『矢島せい子の足跡』(矢島祐利編)ドメス出版、1989年1月
- 『あらくさの花(矢島せい子文集)』(矢島祐利編)ドメス出版、1989年12月